

菖蒲春高会会報

第 4 号
平成17年11月
発行
発行責任者
平澤 憲

『年を重ねて』

会長 平澤 憲

菖蒲春高会が発足して、はや九年目を迎えました。母校百周年を機に県内はもとよ

りと、全国各地で活躍されている地区でも続々と誕生し、特色ある活動がなされていると聞いています。菖蒲春高会も地域的に小規模ですが毎年一回の総会、懇親会には全役員をはじめ都合のつく方が年ご

とに増して参加され、中には大学在学の方も参加されています。母校事務局長であり、恩師でもある中村行生先生を囲み、時代の違いを超えて当時の思い出を語り合い、また現在のそれぞれのお仕事や生活の様子なども披露され、それぞれ年を重ねたご苦労話

が力

『後輩たちの学習環境にご理解を』

春高同窓会事務局長 中村 行生

貴会会報第四号の発行、心からお喜び申し上げます。組織を守り発展させていくには会報の果たす役割が大きいと思っております。四回目を迎

えるこの会報が、貴会の会員相互の太い絆となることと拝察しております。ところで、ご案内のように、今年六月に春高が県下で

強く、春高の卒業生として社会での重責を担っておられる事に感銘致しました。

盛り上がった懇親会の結びには元応援団長の二人の指揮により応援歌、校歌が料亭外まで響き渡り、まさに青春時代に浸ったひとときでした。

来年（平成十八年）は十周年を迎えます。区切りとして少々の企画を考えておりますので、ご多忙のことと存じますが是非ご参加ください。ようご案内申し上げますと共に菖蒲春高会の皆様方のご健勝と益々のご活躍ご発展をご祈念申し上げます。

て普通教室にクーラーを設置しました。六年ほど前に竣工した新校舎は、冷暖房設置を前提とした設計で作られたものですから、風通しが大変悪く七月には四〇度近くになることがありました。そこでク

ーラー装置をレンタルで設置し、保護者が毎月千円を負担することをPTA総会などで決めたもの。当初県当局は財政難を理由に反対していません。また、一部の関係者やOBにクーラーなど春高にはふさわしくないという声がありました。後輩たちが快適な環境で学習に頑張ってもらいたい。これがぜひ必要だろうと思われま

『試験の地方自治体』

第23回卒業 中山 登司男

今、多くの地方自治体が試験の時を迎えています。菖蒲町も例外ではありません。低迷する税収、三位一体改革による地方交付税等の削減、基金の減少、公債費の増加などにより、財政はかつてないほど逼迫した状況になってい

的な打撃を与えております。このような状況の裏には、市町村を「合併」に追い込もうという国の思惑もあったものと思われます。

今後、市町村合併の再検討も必要であると考えますが、まずは私たちの愛する郷土、菖蒲町を守り、住みよい町として発展させていかなければ

なりません。そこで、菖蒲町ではこの危機を乗り切るために、この春から「緊急行財政対策室」を設けて、一生懸命努力をしているところです。今まさに菖蒲町は、「大改革」の時。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

『同窓生』

第20回卒業 平澤 栄 蔵

彼岸の連休に会津への親睦旅行に出かけた。電車での旅で、へつりの塔や若松城を見学し、台風に追いかけられ天候に恵まれなかったが、中学時代の同窓生と懐かしく楽しい一時を過ごせた。この旅行会は一八年間続いているとのことだが、徐々に参加者が減少傾向にある。昨年、中学時代の四〇年振りの同窓会があり、そこで幹事を務めたこと

から親睦旅行への参加を薦められた。初めての参加であったが、旅先で同窓生と飲んで語り明かす一時は格別なものがあった。

菖蒲春高会も九年目を迎えたとのこと、もうそんな回を重ねるのかと感慨深い。春高の同窓生でも、サラリーマン生活をしているとお会いする機会がほとんどない。したがって、菖蒲春高会総会は

菖蒲の春高同窓生が年一回集える機会であり、大変貴重な会合である。春高同窓生の活躍状況を肌で感じ、春高の最新情報をつぶさに得られる。一人でも多くの同窓生に集まっていたきたいと願う次第である。

『パブリックビジネス』は起業のチャンス

昭和39年卒業 小山 典 宏

会社でも同期生が集う。同年代層が集う。同じ部署にいたが、今は別々の部署で活躍する同士が集う。でも、昔同じ部署で共に汗を流した仲間と集うのが一番楽しい。それが同窓生なんですね。話がつきないですから。

農地法・農業経営基盤強化促進法の改正で、株式会社等の法人の農業参入が本格化する。また、LLP・LLC関係

る役割を担うことになるが、実際の運営は民間委託に頼る可能性が高い。

連法はすでに施行され、来年四月の新会社法の施行により法人の多様化が実現する。農業分野においても大企業の参入だけでなく、これらの組み合わせで既存農家の大規模化がすすむ可能性が増してきた。今後は、耕作放棄地等の有効活用も期待される。法人の農業参入に際して、農業委員会が農地の賃貸借を斡旋す

今年六月の閣議決定「骨太の方針」第一章で「こころ・二年の構造改革の進展が日本の将来を決める。」と明言しているが、規制改革による官業の民間開放は「郵政民営化」のみならず、すべての分野に及ぶことは明白である。この巨大な事業機会を、「パブリックビジネス」と呼ぶようだが、前述の農業分野にとどまらず、身近なところでは

「駐車違反の摘発」、「車庫証明の発行」、「官庁の受付業務」などが民間委託されるようだ。

このように「パブリックビジネス」は大企業や特殊な業界だけではなく、関連事業を

『修行に明け暮れる毎日』

昭和46年卒業 蓮見秀夫

会長さんはじめ、役員の皆様、申し訳ございませんでした。何も知らせないまま、役所を辞めて、本山の学院に来てしまったこと、ご迷惑をおかけしています。

入学当初は、不安でいっぱいでしたが、仲間の二十六名と生活を共にしているうちに、徐々に慣れてきました。

そして、七月十五日から九月九日までの五十六日間の加行も全員成満できました。

一日のスケジュールですが、午前五時から作務が始まりますので、その前には起き

含め国民の多くが参入できる可能性を秘める。私は、行政と民間とのパイプ役の行政書士として、今後増え続けるであろう「パブリックビジネス」関連の相談に備えている。

て準備をします。午前六時から七時過ぎまで朝の勤行があります。皆で本尊様にお経を唱えるのです。終わって、やっと朝食です。おかずは一品です。午前八時から、各お堂の清掃です。九時十五分、学院の本尊様にお経をあげます。九時三十分〜十二時まで、午後一時三十分から四時までが授業です。四時十五分から夕勤といって、また別の本尊様に向かってお経を唱えます。終わって、各お堂を閉めて夕食。六時から夜の勉強が一時間半くらいあります。

これでやっと自由になれますが、宿題やら復習やらあります。お風呂に入って、九時三十分点呼、十時消灯となります。

これが原則的なスケジュールです。あと五箇月余り、元気な姿でご報告できることを、楽しみに、がんばっていきたいと思います。

『長嶋茂雄に会いたい』を讀んで

第37回卒業 野本順一

我々春高陸上部の後輩たちが奮闘した千葉インターハイ（八月一日から）を直前に控えた二〇〇五年七月二十四日。私は、大宮球場で開催された甲子園大会県予選（春日部高対昌平高）の五回戦を応援に行つた。なぜこの球場に足を運んだのかというと、私の高校時代の恩師・小原敏彦

陸上部監督の著書「長嶋茂雄に会いたい」（エコー出版）を讀んだ影響だった。

今から五十年以上前、甲子園を決めるための第三十五回関東大会がこの球場で開催されていた。埼玉代表の熊谷高校と長嶋茂雄を四番に控えた千葉代表の佐倉一高（現在の佐倉高校）が一回戦で対戦した。長嶋茂雄さんが、世にその輝きを放つた貴重な初戦となったのだ。

甲子園出場高校の熊谷は二年生のエース福島は好調。六回間で無失点の力投。対する長嶋はヒットを放つものの、四番打者として長打を封じ込まれていた。いよいよ第二打席。長嶋は、初球の真ん中ストライク、二球目は外角のボールを見送った。カウントを詰めるためエース福島は、決め球のシュートを渾身の力で投げた。だが長嶋は待つていたかのようにバットをかぶせ気味に、鋭く回した。「カキ

「ーン！」誰もがその鋭い音に度肝を抜かれた。球は恐ろしい早さでバックスクリーンに突き刺さった大ホームラン。

観衆はどよめいた。飛距離一〇七メートル。昭和二十八年の高校生で、ここまで飛ばせる選手は過去に存在しなかった。「あのバッターは誰だ？長嶋？…」当時、高校野球専門の記者はまだいなかったし、まだ一回戦だったため、新聞記者席はざわめいた。しかし、朝日新聞の久保田記者は直感した。「…甲子園に無縁の高校の、ノーマークのバッター…長嶋茂雄…すごい選手がいるものだ…」その試合に佐倉一高は負けてしまったが、久保田記者は長嶋の弾丸のごとき大飛球を大きく記事にした。これが口火になり、長嶋茂雄ストーリーが始まっていくことになる。久保田記者は「ダイヤの原石を発見した男」として有名になったという。

それから五十年後、セピア色となったその長嶋茂雄伝説と同じ場所に立ち、偶然にも我が高校野球部の後輩諸君が時を超えて同じように激闘を繰り返している。年甲斐もなく感傷的になってしまった自分に少々気恥ずかしくなつた。

事務局だより

平成十七年度総会を開催

平成十七年度菖蒲春高会定期総会が平成十七年十月三十日（日）、大浜において開催されました。

当日は、来賓の春高会事務局長の中村先生を始め、今までになく会員十四名が参加者され、最後は、応援部OBの指導による恒例の校歌斉唱で締めくくり、大いに盛り上がりました。

平成十八年は、菖蒲春高会

が発足してから十周年という節目を迎えます。ささやかながら、記念事業等も計画しておりますので、皆様のご協力をお願いいたします。十周年事業について、何かアイデア等がありましたら、ご一報いただければ幸いです。また、会報への投稿もお待ちいたしております。

【菖蒲春高会事務局】

担当：齋藤武雄

〒346-0105
埼玉県南埼玉郡菖蒲町
大字新堀 2579-2
TEL : 0480-85-7778
E-mail :
nyanko19570705@yahoo.
co.jp

『編集後記を兼ねて』

第28回卒業 齋藤武雄

事務局を平成十七年度から担当しています。菖蒲春高会発足以来、事務局を担当されていた蓮見氏が、突然、役場を退職されて京都に修行に行くことになったので、この大

役を引き受けることになりました。

何もわからないまま、ここまでどうにかやって来られたのも皆様の皆様のご協力のおかげです。改めて感謝申し上げます。

さて、年間の最大のイベントである定期総会が終わつて、この会報第四号の編集をしていると、時の経過は速いもので、いつのまにか年が明けてしまいました。十一月中に発行する予定が私事で大幅に遅れてしまい誠に申し訳ございませんでした。

さて、年が明け、北日本や日本海側の地域では、記録的な大雪が続いています。関東地方でも、例年になく厳しい寒さが続いています。風邪などひかぬよう健康には万全を期したいものです。平成十八年は戌年、「わん」ダブルな年になるようご祈念申し上げます。